

## 亀岡市循環型社会推進審議会 会議記録

会議名	第48回会議
日時	令和4年6月 28日(火)午後2時00分～4時00分
場所	ギャラリーかめおか2階 大広間2つつじ
出席委員	13名のうち9名
事務局	5名
傍聴	0名

### 次 第

- 1 開 会
- 2 会長挨拶
- 3 審議事項 (1)ごみ処理手数料の見直しについて(その2)
- 4 連絡事項 (1)次回の審議会について
- 5 その他
- 6 閉 会

## 会 議 の 概 要

### ■事務局

定刻となりましたので、只今から第48回亀岡市循環型社会推進審議会を始めさせていただきます。

開始にあたり会長よりご挨拶をいただきます。

### ■会長挨拶

### ■事務局

ありがとうございます。当審議会の運営につきましては、審議会条例施行規則第5条第2項により、委員の半数以上の出席がなければ会議が開催できないと規定されています。

本日は、委員13名中9名の出席をいただいておりますこと、半数を超えておりますことから、本会議が成立していただきますことをご報告いたします。

事前に送付の資料といたしまして、

- ・ 本日の会議次第
- ・ 資料1「ごみ処理手数料等見直し検討資料①」
- ・ 資料2「ごみ処理手数料等見直し検討資料②」
- ・ 参考資料「第47回会議の会議要旨」

また、本日机に配布の追加の資料といたしまして

- ・ 参考1 「可燃ごみ分別状況」(A4 横版)
- ・ 参考2 「埋立ごみ分別状況」(A4 縦版)
- ・ 参考3 「リユース品試験回収について」(A4 縦版両面)

でございますが、資料の不足はございませんか。

(そろってれば)

それでは、亀岡市循環型社会推進条例施行規則第5条第1項に基づき、会長に議事進行をお願いしたいと存じます。

会長、よろしく申し上げます。

### ■会長

それでは、次第に沿って進行させていただきます。

3協議事項「ごみ処理手数料の見直しについて(その2)」について、事務局より説明をお願いします。

■事務局

それでは、協議事項（１）「ごみ処理手数料の見直しについて（その２）」についてご説明申し上げます。お手元の資料をご覧ください。

－資料を用いて、説明－

事務局からの説明は以上でございます。

■会長

只今の説明について、ご質問、ご意見はございませんか。

■委員

答申はいつ頃と考えていて、それまでにあと何回審議会が開催されるのか教えていただきたい。

先ほど、ごみ処理費用のうち何％かを手数料として頂くという説明がありましたが、15年前に指定ごみ袋制度を導入した際は、ごみ処理手数料を転嫁するという考えはそもそもありませんでした。あくまでも、環境推進事業の財源の確保策として手数料を上乗せするというので、ごみ処理費用として手数料を頂くという考えはなかったですが、そこは方向転換をされたのか。

コロナ禍かつインフレが進む中で、わずかな金額であれ、この時期に値上げの議論をするのは、如何なものかと思えます。

埋立てごみについては、分別拡大し製品プラスチックを取り除いて排出することになると、当然のことながら、量が半減する状況の中で、結局値上げしても、同じ金額しか入ってこなくなることも考えられる。それでも見直しを考える必要があるのか教えて頂きたい。

■事務局

答申としては、9月頃に頂けないかということで、今後2回ないし3回程度は審議会を開催したいと考えております。料金改定になりますと、条例の改正が必要なので、議会の確認も必要なので、9月頃には頂ければと考えております。

料金について処理費用ではないという話でしたが、申し訳ないですが、かなり前のことで、その費用の内訳まではわかりませんでしたので、大体他市の状況をみるなかで、20％が受給者負担に設定されているので計算をさせて頂きました。

確かに料金が上がることについて敏感に感じられるところもありまして、市議会等でも説明をしていますが、料金が上がることについては、慎重に考えて頂く必要があるかと思えます。

決して料金を上げることを目的でこの審議会に提案をしているわけではなく、例えば料金が上がるということを見せることによって、排出抑制なり分別拡大に繋がるのでは

ないかということで提案しているところです。

#### ■委員

収入の増額は考えていないということですので、一般の方が見たときにどういうことならば納得できるかなという視点で考えると、ごみをプラスチック中心に減らしていきましようというのが、資源化を進める目的であって、冒頭にあったようにそれを無料で回収しますというのは素晴らしいなと思って聞いていました。

埋立てるしかないごみについて幾らにしましょうかって議論する場合に、論理的に使える言葉としては、『これでもやっぱ家計にやさしいんですよ』っていうことが欲しいです。

材料費等いろんなものの料金が上がっていく中において、非常に敏感になっている人が多く、値上げと聞くと、なんで？と感じる人が多いと思います。

埋立てるしかないごみを減らしたら、有料ですが実費は減らせますよって話ですね。今までお金を出して購入していたごみ袋の料金は上がりますが、あなたが埋め立てるしかないごみを減らしてくれば、その分実費は減らせますよ、という論理は一つあるんじゃないかなと思います。ということは、分別拡大により埋立てごみが 40%減りますねってことであれば、逆算すれば、料金を 40%上げてよいのではないですか、という話にもなると思います。

こういう論議は別にして、減らすっという前提で話していくとか、今より 2 倍とかでもよいような気がします。皆さん全員が納得しようと思えば理屈がいろいろあります。一つは家庭にとって負担は今までと変わらないということ、もう一つは、正義の話です。国で決まったから、プラを減らしましょうという法律に従いますという話とか、受益者負担率を上げるという話は、一般の気持ちから言うと、ちょっとわかりませんという話になってしまいますので、普通の気持ちで受け取ったときに納得できるような線がいいんじゃないかなと思います。そういう理屈を皆さんと一緒に考えていければいいかなと思います。

#### ■会長

今回諮問頂いていることで、一体何を実現したいのか、例えばですけど、お隣の京都市でしたら、ごみが有料化されて家庭からのごみを半減させましたが、とにかく家庭からの家庭系一般廃棄物を半減させましょう、っていうことが一つの成果として市民の皆さんに大きく共有されています。

そういう何かこの審議会でみんなで一緒に頑張りましょうっていう目標がもしかしたら皆さんの中で共有されていないんじゃないかなと思いました。

#### ■事務局

今会長おっしゃられたように、事務局が提案したものを認めてくれということではなくて、僕たちも答えを探している状況の中で、ご意見いただいたことをまとめていきたいっ

というふうにしただけで考えておりません。

ちゃんと排出して頂くと、家計の負担は減りますよ、っていうことは当然伝えていかなないといけないですけど、やはりちょっと価格を上げた方がイメージが変わるかなと思っておりまして、私たち自身も、市民の立場に立ったときに、どういうふうにしたら市民負担をかけずに、ちょっとでもごみを減らす取り組みしてくれるのかなっていう部分で、いろんなパターンを示しているだけで、上げないという選択もあるのかなと思います。

結局亀岡市の目指しているのはどこかっていうと、前回のごみ処理基本計画に示していますが、埋立て処分場があることによる影響は大きいと考えております。今は大野に処分場がありますが、その前は医王谷に処分場があり、そこは現在閉鎖して使っていませんが、実際にはそこにも毎年何百万のお金を使って水の処理をしておりますし、検査もしております。

それがすぐに終わってしまえば問題ないですが、あと数十年水が綺麗になるまで続きます。その負担を誰がするのかというと、今の人間ではなくて、将来の子供たちに負担がかかるので、そこはなんとかしたいという思いがあります。

方法はいろいろあると思いますが、できるだけごみを減らしたいねっていうところで、どうしようかなっていうことでの提案です。

#### ■委員

ごみを減らしたいという意識は、共有できると思います。ただ、ごみを減らしたくても減らせられない人達がいるということを意識する必要があります。例えば、介護をしている方や子育てをしている世代など、ごみを減らしたくても減らせられない人達がいるっていうことを、きちんと考慮しないといけない。

それとあわせて、このごみの問題だけじゃなくて、公共的なものの値上げの際はそういった方たちへのフォローができるかどうか、この論議をしっかりとっておかないといけない。減らしたくても減らせないっていうのも審議会の一つのポイントだと思います。

先ほど委員の発言で、この時期に‘値上げ’という響きが市民にどう受け止められるのか審議会としては慎重に考えたいと思います。

ただ、何もしなければ、ごみの処理経費がどんどん上がるのは間違いない、だから市民の中に、いかに無駄なごみを減らすか、という意識や、どれだけごみ処理にお金がかかるかという意識をしっかりと持ってもらう必要がある。

ヨーロッパではごみを出す量とお金は正比例している。20年前から当たり前の話。市民のごみを減らせばお金がかからないという感覚はやっぱり引き続き、市民に届くような形で提案し続ける必要があると思っています。

埋立てごみ処分場の実情を市民は気にしていない。私たちは、気にしていない市民が何を感じるか、暮らしの中で自分が出しているごみに関してどれだけのアンテナを張って頂くための仕掛けを考えていただく必要がある。

この資料だけ見ると値上げや、お金や、と感じてしまう。確かにお金が関係すると、考

える人もいるでしょうが、制度が変わっても変えない人も一定数いる。ごみを出す、その排出量をいかに減らしていくか、これも普遍的な命題です。やっぱり減らすためにもっともっと強固にアピールしていく必要があるのかなと思います。私たちの審議会としての意義、それはしっかり 9 月までに論議を深めていただけたらありがたいと思っています。

#### ■委員

資料に書いてあるように、公費負担と受益者を提示されて、受益者負担を増やせば公費負担が減らせるみたいな、そんなロジックでご説明されると、やはり、2 重課税っていうような印象をぬぐえない。

もう一つ、先ほど事務局から説明にもあった、製品プラスチックを一括プラで集めるという話の中で、専用の袋は作りませんとおっしゃられましたけども、前回審議会のときは、専用の資源ごみの袋を作って有料化するという話だったと思うのですが。

例えば、容器包装プラスチックを今集めていますけど、ペットボトルは別で回収しています。ペットボトルも出す時には、蓋とラベルは分けて出さないといけない。その作業は消費者にとってはかなり大変でわからない方もたくさんおられる。その上に製品プラスチックも一括で回収するとなると、製品プラスチックもバケツや歯ブラシなどプラスチックだけでできたものはいいのですが、おもちゃなど中に機械類が入っていたりする、いわゆる複合素材でできているようなものは、埋立てごみなのかかわからない場合、分別が排出者の負担となるのではないか。

その結果、不適正排出や不法投棄に繋がることも考えたときには、やはりそれは、どうあるべきかをしっかり見極めた上で、一括プラというかたちで、ペットボトルも、容器包装プラも、製品プラも一つの袋でシンプルに集めることは、有効だと思います。

埋立てごみから製品プラは分けられる。そのプラを入れる袋は無料と定義してあるかもしれませんが、今もうレジ袋が無料で配られていないので、皆さん袋を購入されている。なので、市がそれ用の袋を作って原価で売ってもいいのではないのでしょうか。環境事業公社の立場で申し上げますと、製品プラが今のように透明の袋の中に入れて排出されると、製品プラが割れたり、尖ったものがはみ出して回収する人がけがすることも考えられます。だから現状埋立てごみの袋は分厚く作られています。プラを一括で集めるのであれば、埋立てごみの袋が減る分新たに専用の透明の袋を作って製造原価で販売することがすごく大事だと思います。

#### ■事務局

資源ごみにつきましては、前回の会議の中で、そういう方向性だったので、前回の審議会の内容にあわせて指定袋ではない袋での回収方法を提案させて頂いたところです。

実際に国からプラを一括で回収して全部リサイクルするようになっているわりに、中身はまだ確定していない。前回の審議会の中で、一括で回収後その先で分けて処理す

るのであれば排出段階で分ければよいのではないかという意見もあったんですけど、それも一応一括でリサイクルする話もあるものの、どうなるかわからない状況です。

袋が丈夫な方がよいという話もありましたが、それはまた次回検討させて頂きたいと思います。

来月国から新しい情報が入ってくる予定ですので、情報共有をさせて頂きたいと考えております。

#### ■会長

参考資料1で、可燃ごみと呼ばれるものの中に、そこにはないはずの瓶が混じっていたり、或いは埋め立てごみの中に、本当は再資源化できるものがいろいろ混ざっている、要はここをどれだけ資源化できるかということで、ちょっと今日、手数料の見直しの細かいシミュレーションをして頂いていますが、ちょっとこの具体的な金額は置いておいて、結局のところ、市民の皆さんは負担が増えるのか、それとも減るのかっていうところに関心があるのは事実だと思うんですね。

亀岡市が今環境先進都市を目指している。そして市民もレジ袋をやめてそれが受け入れられた。そういうことをしていけば、自分たちの生活がよくなると実感頂くことが重要だと思いますが、蓋開けてみたら家庭のごみ処理経費が単なる値上だと捉えられてしまうのは事務局としても本意ではないでしょうし、まず手数料の考え方でうまく制度をつくれれば、例えば分別をきちんとして頂いている方は、手数料の負担が下がる、逆にそれをしない人は上がるんだと、まずそこは皆さん共有頂けるということでよろしいでしょうか。

そのところで、亀岡では実質的に埋立てごみを排出するオプションは黄色の指定の袋に入れるしかない。この黄色い袋の中身を何とかしようと思っても、例えば先ほどおもちやだとかどうするのって話がありましたが、容プラの中には入れられないし、黄色い袋に入れざるをえない。きちんとして、或いはもっと自分も頑張っって分別しようと思っってくださいる方も一定割合いらっしゃるが、そのための仕組みがいまはないんですね。

そこを先に議論しておかないと、単なる値上げとしか受けとめられないのではないかなあとと思いますが、このあたりは皆さん、いかがでしょうか。

#### ■事務局

料金の改定の議論をしていただく前に、亀岡市の現状が全然伝わっていないので、情報の発信のやり方を見直す必要があると思います。今考えているのは現在小学校の4年生が施設見学に来ますが、大人も施設見学に来て頂いて、現状を知って頂きたいと思っています。そういった取り組みをする前提の中で、料金の改定について協議頂ければと思います。

#### ■会長

手数料を改定していくにあたって、これが単なる値上げというふうに皆さん受けとめずに、市民の皆さん一人一人の暮らしがよくなる。必要な部分はコストを負担頂くのは仕方がないので、自分が変わったから減らせるよね、というふうに持っていく必要があると思います。ごみの分別区分が何も変わってないのに値段だけ変わると値上げと受け止められるのは必然だと思いますので、どういうふうな仕組みがあったら市民の皆さんが理解しやすい、或いはどういうことを伝えるべきか、優先順位つけて伝えていくことが大事だと思います。

#### ■委員

料金が上がったから減らそうという層もいれば、逆にお金を出しても、料金は別になんぼでもいいよっていう層だったり、障がい者さんや、高齢者さんってというような層もあったりします。僕はどちらかと、学校という、子供たちを見ていく層の方の話でいうと、お金が上がっても多分、先生は一生懸命、職員室の中ではごみを減らすための取り組みをやるだろうけれども、子供たちにお金上がるからこうしようねってというような、話にはなっていないような気がして行って、そういう意味では例えば学校でどんなことをしたらいいですかって言われたら、例えば分別をやれば、ポイント的な感覚で、これとこれを分けました、これ分けたから、こういうふうのポイントが出て、黄色の袋がもらえる、などプラスになる仕組み作りがあれば、大人になっていったら、それはきつものでもらえるというよりは、持続可能でごみが減りプラスになっていく、社会のために役に立っていくというベース作りを学校や審議会なんかでアイデアを僕らが出していかないとけない。

こうやったら子供たちに身がついていて、大人になっても、これとこれはわけよう、みたいな感じで、教育をする中で何かポイントが入るとか、お得感があるとか、人の役に立ったとか、何かそういうふうな仕掛け仕組みづくりがあることが大事なのかなと思います。

例えば、学校と、社会的弱者の方とかは、そのようなやり方で、お金を負担するんじゃないかってこうしてもらったらお得感とかもありますよね、みたいなことがこの審議会で話ができたらなあと思ったりします。

先ほど言われたように料金があがっても変化のない人にもアプローチがいる感じにして、ちょっと層分けて考えることが大事だなと思いました。

#### ■会長

鹿児島県大崎町、全国でリサイクル率がナンバーワンを争っているところですが、小さな町ですけど、リサイクルの再資源化のごみの売却益は、大体 1000 万円ぐらい毎年あって、それが子供たちの奨学金になる。それは町長がはっきり決めており、だから例えば中学生の皆さんが、登校の時には独居老人のごみ出しの手伝いをされるとか、ちゃんと頑張った分自分たちに返ってくるっていうのが見えているから、もちろんそういう田舎ならではの風土というのもあると思うのですが、頑張ったら、こういう良いことがある

よということを見えるようにしている。一つは、何を頑張るのかはしっかり提示したら頑張った分メリットがあるっていうのを見せることも必要ではないか。

#### ■委員

京都市のエコロジーセンターでボランティアやっていました。小学校3年生4年生を対象に、ごみに関する授業で、みんなでごみ減らすにはどうしたらいいだろうね、ってこう話をするボランティアをしていました。そこで、子供たちに未来の話しを必ずします。京都市の場合は、処理場がもうない、ごみ捨てる場所がなくなっちゃうという話を必ずしている。そうなったらいやだよって話の中で、じゃあどうやってごみを減らそうかっていう話に入ってくるわけですけど。そのまま進んだら未来が困るという話ですよ。京都市は切羽詰まっていたので、もうすぐにでもなんとかしないと大変なことになるっていう話から、ごみを半減するっていう計画が出されて、びっくりしたことにはそれができちゃうわけですね。

例えばだれしも亀岡市民だったら考えなきゃいけない問題、未来の子供たちのためにも、こうしなきゃいけないよね、というのは正義の話なので、これは通りやすいです。

どのぐらい困っている、もう少しごみを減らすことによって、その処理費用で、そのお金がこっちへ回るっていう話をすれば必ずそれは市民及びみんなが考えるべき内容になってきます。

環境の話になると、未来にこういうふうになれば、それが結局我々の生活にそのお金は回ってくるという話ができれば、話しやすいかなあというふうに思います。

#### ■委員

中学校3年生の男の子が、ビニール袋を持って、ごみ拾いを3週間ぐらい続けたそうです。3週間ほど続けたときに、原田先生から、こんな子がいましたよ、と教えて頂きました。原田先生の方見て、やってるよ！と白いごみ袋見せて、親指立てて「よっしゃ！」みたいな、やりとりがあったというメールを頂いて、すごくうれしくて、これが将来に続けば心の情操になるかと思います。このように良い瞬間を見たから、亀岡市に報告してホームページにちょっと良い話みたいに、紹介されたりすることで小さいことですけども、心の情操をうまく取り込みたいな気はします。

#### ■会長

市役所から連絡がくるときって大体値上げのときですよ。だからそこで反発を招いてしまう。今日の資料の中にリユース品の試験回収とかありましたけど、ちょっとしたことを普段からコミュニケーションしていたら、無駄な反発を招きにくいというのがあって思います。

あと今村山さんおっしゃった京都市のお話ですけど、京都市のごみの区分で埋立てごみの分別区分はないです。資源化ごみ袋があって、実は値段のこと言うとぶっちゃけた話、京都市の方がちょっと高いですけど、実は亀岡市は南丹市とかと比べても、うんと

安い。近隣と比べても多分値上げという視点で言えば値上げの余地はあるのかなと個人的には思うんですが、それとは別に、やっぱり京都市でも分別の区分が亀岡市より結構細かいです。分別のオプションをどういように増やしてくかということが先にあって、その上でそれでも丸投げしたい人は、それは申し訳ないですけどもお金くださいねと。こういうふうな流れに持っていくことが大事じゃないかなと感じました。

#### ■委員

私も子供がいますが、子供の方が学校でごみのことを学んでいて教えてくれます。親の方がちょっとついていけないところもあったりして、私も埋立て処分場の寿命という話を聞いて、どれぐらいあともつのかとか、どれぐらい減らせば、どれぐらい延命できるのかとか、そういうことも知りたいなあと思います。

それをまた子供と一緒に考えながら、家でもごみの分別ができたらなあと思いましたし、多分そう思う人もたくさんいると思うので、わかりやすい時計みたいな、あとどれぐらいです、みたいなものを見せていただけたら、子供たちもわかりやすいし私たちもわかりやすいと思います。

#### ■事務局

今回の改定は値上げだというふうには僕らは思っていないです。提案としては、見直しをしながら、きっちり分けて頂けると負担が減るようにしたいと思っています

将来を見据えてまちぐるみでごみのことを考えていくっていうことができればと思います。そのためには野々村委員からもありましたように、何がどんな状況なのかっていうのは、しっかりと情報を出していく必要があると思っており、これから、そこについてやっていきたい。

埋立て処分場でいきますと、当初、令和3年度でいっぱいになる予定でしたが、皆さんの分別、資源化が進むことによって、10年延長になりました。

ただ、資源化率は亀岡市では20%もいっていません。さっき原田先生おっしゃった大崎町は80%を超えています。ただ人口規模がありますから、その部分を考慮したとしては(亀岡市も)50%ぐらいに上げられれば、もっと埋立て処分場は延長できると思いますし、ゆくゆくはもっと減らせば、もっと違う形の処理というのが出てくると思います。

本当におむつの問題点はこれから深刻な問題だと思います。いま燃やすごみとして処分していますが、将来的にはそれを資源物として回収できるような仕組みを作りながら、皆さんが努めていただくと、経済にも優しく、環境にやさしい、両立できる社会を、作っていきなというふうには思っております。

なおコストが削減できれば、(その経費を)教育にまわしたらいいじゃないかという考え方を心に持ちながら、今回の見直しは、第一歩だと思っています。ごみ袋の有料化に続く、次の一歩としてやっぱり今回大きな一歩になると思います。

■委員

小学生はその環境学習を受けている子たちもいますが、中学生とか高校生、大人です、全然知らないです。実際亀岡市が今どういう状況かというのを本当に知らない。

ただ、プラごみのことを、ここ2、3年やっているの、そういうことは意識としてありますけど、みんながどういうふうに整理したら良いのか本当に知らない人がまだまだ多いと思います。

なので、今例えば盛り上がっているサンガスタジアムを活用して情報を提示したり、例えばグラフ化するとか、今週こんな結果出ましたみたいなものを出すとか、例えば学校で競争し合うとか、町内で競争するとか、可視化することで見えてくることで、頑張ろうってなると思います。

■委員

剪定時期になると草木を大量に処分することになるが、それを排出するための専用の袋などがあれば良いと思う。

■会長

剪定枝などの堆肥化は今後検討されているのでしょうか。

■事務局

剪定枝についても資源化を検討しています。また、鉄くずも資源化にまわしたり、将来的ですけども、おむつ、生ごみも検討しています。そうしていくとだんだんごみは減っていくと思います。

■委員

小学校では環境であったり、ごみに関わるような取り組みをしています。小学校4年生でエコトピア亀岡に施設見学にいらしています。同じような活動を18校ある小学校の中でどれだけ実施をしているのかということがやっぱり、大きな課題であろうかというふうに思います。

本校も4年ほど前に、事業系廃棄物ではなくて、燃えるごみとプラごみを職員も分別をしながら、子供たちに教える取り組みを進めていますので、そういったこと、小学校段階で、20年先を見据えて、子供たちに教育が実践できるようなことが本校だけではなくて、残りの学校にも呼びかけていかなければいけないと思っています。

値上げの件について受益者負担は仕方ないと思いますが、小学校での環境教育が終わって中高でどこまでやっているか、一般の働き盛りの人がどれだけの亀岡市の現状知ってるか、危機感を持ってるか。おそらく、もう忘れてしまったみたいな感覚になっている気がしますので、YouTubeを活用したり、広報啓発活動をして伝えていくことが必要なんだろうなと思っています。

160円のお茶が180円に秋には20円値上げする、このご時世9月に答申をして(ご

み袋の値段を)2倍に値上げするとすると、いろんな反発を買ったりしますので、広報活動の中で、このままでいくと、将来的に2倍 3 倍にあげないといけなくなるという将来の見通しを提示したうえで、そうならないためにこういう取り組みをしないといけない、それができないと受益者負担が上がる、といったような将来の見通しを持った広報をどんどんしていく必要があるかなというふうに思っています。

#### ■会長

皆さんからまず広報、現状について、これはしっかり知らせることが先ではないかという意見がでています。

スケジュールですけど、例えば、料金の見直しをすると実施のスケジュールや、見直しをする時期っていうのは何時ごろと考えていますか。

#### ■事務局

次年度 4 月から分別区分の見直しをするのであれば、料金の改定も一緒にしていきたいとは思っております。

ただ、分別も含めて、いろいろと変化がありますので、今すぐそれに順応できないこともありますので、猶予期間等も設けるとともに、それまでに決まったことに対して、広報活動が必要だと思っておりますので、それは徹底してやっていきたいと思っています。

#### ■会長

例えば京都市内の話もそうですが、かなり細かい区分で分別をしていて、京都市なんか埋立てごみっていう区分自体をなくしています。

埋立てごみを減らしたいと思っている市民が、それを減らすための選択肢を4月からの料金改定に合わせて分別区分を見直すのはかなり難しくないですか。プラの一括回収とお話ありましたけれども、いかがですか。

#### ■事務局

現状を見たときに、4割くらいは制度を変えなくても埋立てごみは、減らせるのではないかと考えています。ただ理解が進んでいなくて、故意ではないですけど間違えて埋立てごみに入れていることはあると思いますので、この辺の周知する必要あると思います。

#### ■会長

配布資料によると製品プラスチックと容器包装プラスチックを一括で資源ごみとして回収することになっているが、前回の審議会では、回収のための袋を作るのか作らないのかっていう議論がありましたが、これも同時に4月1日、もしくはそれより早い段階でスタートするっていう理解でよいですか。

4月1日にスタートということであれば、これまで黄色いごみ袋に入れていたごみを

減らすオプションをちゃんと市民の皆さんに提示した上での手数料の改定ということであれば、説明する必要ありますし、一括回収だけで4割は減らせるっていうこともしっかりと広報していくことが大事です。

もう一つはプラスチックの一括回収ということを、この限られた時間の中で、皆さんにどう伝えていくか、しっかり頑張ってもらった人は、値上げのように見えて値上げじゃないですよっていうことを伝える必要があると思います。

#### ■事務局

もちろんタイトなスケジュールであり大きなチャレンジだと私どもも思っています。予定としては12月で条例改正の手続きをするために9月に答申をいただきながら、私どもとしては地元の説明に入りたいと思っております。

#### ■会長

京都市なんかは、資源ごみの袋とは別に鍋とかはフライパンとかは、適当な中身の見える袋で、一緒に置いといてくださいねっていう形をとってありますね。例えば、そういうことも合わせて導入することは可能ですかね。

#### ■事務局

そのメニューもしっかり示した上でやっていかないといけないと考えております。

#### ■事務局

回収対象品目を拡充させるとなると、回収用の車両等が必要になるので何らかの工夫は必要かと思えます。

#### ■委員

プラスチックを一括回収する際にペットボトルも混合に回収すると資源化物回収の拡大になるのではないかと。そうすることによって、その分の人なり機材なりを他の事業に回すことができると思う。

集め方も必ず公社が集めるっていうことではなく、拠点回収を拡充すれば別にわざわざ回収に行く必要がなくなるのではないかと。そうすることによって埋立てごみは陶磁器くずだけになるのではないのでしょうか。

#### ■事務局

次回の審議会までにそういう分別品目の提示もしながら料金の話も引き続き議論をして頂ければと思います。

ペットボトルの話が出ましたが、亀岡は完全ペットボトルの水平リサイクルをしております。亀岡市で回収したペットボトルはすべてケミカルリサイクルでペットボトルに生まれ変わる完全循環をしているので、回収方法については今まで通り分けた形で回収がで

きれいなと思います。

#### ■委員

プラスチックを一括で収集するのは良いことですが、多分製品プラスチックって何って話です。多分国からガイドが出て、ある程度が分類されるだろうなと思うんですけど、プラスチック容器包装でも汚れているものは駄目なので、燃やすごみに回さなきゃいけないんですけど、では汚れてどのくらいなのかとかいう話だと、実はかなり難しくて私でもはつきわからない部分もあります。

今現状どういった容器包装プラスチックが燃やすごみとして捨てられていて、今後はどういった製品プラスチックをわけて一括捨てられるようになるしっかり広報していく必要があると思います。

#### ■事務局

製品プラスチックの話がありましたが、国の方からは、プラスチック製のものに限るとしか書いてないです。全部プラ製でないと駄目なのか、一部金属とかじゃ駄目なのかという、そういうところまでわからない。多分その点も市町村に任せられると思いますし、まずは回収することを大事に考えますので、疑問なものは、プラスチックと思われるものは入れてもらうような形にして、こちらでまた選別なりした方が、回収率は上がるのかなというふうには考えております。いずれにしても、もう少し、皆さんにわかる情報も出していきたいなと思います。

#### ■会長

確かに本当に国からの情報が全然ない中で、どこの市町村が対応に苦労されていると思っています。

もう一つが料金改定の袋のサイズの変更ですけど、こちらも大きい袋が5ℓ増えるということは多分多くの方が値上げというふうにとめになるんじゃないかなあと思います。

#### ■委員

多子世帯のごみの量は大変多い。ごみ袋の値上げとなると単に値上げをするということだけではなく、そういった世帯への対応もセットで考える必要があるのではないかと。

#### ■会長

支援があるってこともセットとして伝えていかなきゃいけない。紙おむつについても実証実験を、できるだけ早い段階でして、それにご協力いただける方を募るなど、減らそうという努力をしてくださる方にはどんどん参加していただけるような仕組みを作っていくことが大事かと思っています。

それと燃やすごみの話の、やっぱり多くを占めているのが、生ごみと雑紙だと思うん

ですけれども、雑紙についてもっと分別する必要があると思います。

リサイクルできるっていうことは新聞紙だけだと思っている方がすごく多いので、そこは周知していく必要があります。

それから生ごみ、これももちろん今堆肥化の実証実験もして頂いていますけど、それとは別に以前からコンポストの補助制度は運用されていて実際コンポストを使用している我が家では生ごみは全くゼロなんです。生ごみを出さない方は例えば自治体によっては生ごみ出さない方専用の袋が、それを無料ないし安くするってことをされています。何か皆さんが参加しやすい仕組みがあれば良いと思います。

気になったのが燃やすごみのところは本当に 40ℓも 45ℓもたくさんごみを出す家庭したら、値上げとしか受けとめられないのではないかなって思います。

そうじゃなくて減らす努力をしてくださると、なにか目に見えて効果を実感できるような仕組みをセットにしておかないと、十分にご理解いただいてない方から値上げと指摘されることがあると思いますので、減らすことでごみの処理に係る手数料も減らせるってことをいかに前面に出していくことが大事だと思います。その辺をセットで考えていかないと、なかなか受け入れられるのは難しいと思います。

#### ■事務局

45ℓをというのは、単価が変わってないので、全く値上げではないですけど、市販で売られているごみ箱が 45ℓのものが多く、それにはまる袋を考えてくれというお話だったので、45ℓを提案させて頂きました。

#### ■会長

何か委員の皆さんのご自宅でこんな工夫していることがあればご紹介頂けますか。

#### ■委員

工夫ではないですが介護しておりまして、ヘルパーさんに来ていただいていたおむつをビニール袋に入れて捨ててもらっていましたが、新聞で包むんで捨ててもらおうようにしています。1日に最低1日分の新聞が必要になります。

ヘルパーさんに聞いてみたところ一番助かるのは、新聞2枚をそのまま敷いてその上におむつを置いて、そのまま包んで捨てるやり方です。

新聞を取れるおうちと取れないうち、また古紙回収に出すおうちもありますが1日に使う新聞を第2第4の土曜日に決められたところに持ってきてもらいたいと考えています。それは、市民の皆さんが、環境に配慮しながら、社会貢献として気持ち豊かになる取り組みにではないかと思っています。それを1ヶ月間使えるようなセットにして、それを個人で介護をしているおうちがわかればそこに、そして多くの事業所に定期的に使ってくださいみたいな形でお渡しできればと思っておりまして、7月からスタートしようと考えています。

■会長

我が家では生ごみ処理機を使っていて、生ごみを一切緑の袋に入れて出していない。そのためうちでは1週間に1回10ℓの袋だけでごみを出しています。あと町内会で奨励金を受けて古紙回収をやっています。

■委員

前日も申し上げましたけども、箱に入った過剰包装はなるべく店で剥がして、店で廃棄してくださいっていうことでお返ししています。ただコロナ禍で、ネット通販が増え、かなり大きな箱で入ってきて、びっくりしちゃったりしているんですけども、そういった小さな努力をしています。

それと、先ほど言われている埋立てごみのところから鉄くずを抜くといっても多分そんなに毎日毎日いっぱい一つの家庭から出てくるっていうことはないと思うので、例えばですけども、瓶の日に、雑瓶のところに出していただくと一緒に回収するかたちでも分別ができるのではないかと思います。

■会長

それはすごくありがたい提案ですね。

■事務局

鉄くずの話ですけど、今は市況が良いので、それなりの値段で買い取っていただけるので、もし回収に協力してくる自治会などがあれば、その収益を還元するとかいう方法もあるのかなと考えています。

それが地域にとってプラスになるのであれば、一生懸命家から探して排出されると思います。その拠点での収集とあわせて、イベント回収を実施して地元の方に貢献できる形が取れればよいなと思います。

■会長

ちなみに亀岡ではアルミなり鉄の持ち去りは今のところは起こっていないですか。

■事務局

今のところ問題になっていることは聞いていないです。

■会長

都市部では持ち去りが大きな問題になっていますね。

鉄くずに関しては定期的な瓶の回収の日に合わせて回収するという提案を頂きましたけど、是非具体的に検討していただきたいです。

■委員

鉄くずを集めるのは学校で行うのはどうでしょうか。PTA 活動はコロナの関係でなくなっていて、例えば鉄を学校で集めるイベント的なものを行って、みんなが集めてくれたからこれぐらいお金が返ってきましたよとか、こういうふうになりましたよって評価したらそれだけでも、子供たちは結果がみえて喜ぶような気がして、何かそういうイベントの企画いただけたら嬉しいです。

ごみ学習とかいうと授業時数が足りないとかになりますけど、授業と全然違うところでの学習がコロナ禍の情勢に合うのかなあというふうに思っていて、是非ともお世話になりたいなと思いました。

#### ■会長

ちなみに台湾に行きますと、ごみの 1 割は、そういう地域や学校での回収が占めていて、やっぱり地域の皆さん学校などにもっていくので、汚れたまま持っていくので品質がいい。皆さんの意識が高まることに繋がって、その収益は学校の中にきちんと返っていくようになっていきます。それがなければただの面倒くさい事業になってしまうので、そういう工夫もされています。

紙パック、牛乳パックなどのテトラパック社製のものは、無料で自主回収していて、回収ボックスとかを無料で送ってもらうことができ、それをまとめるとベルマークになります。私が PTA 会長をしていたころ、ベルマークを集めるのはみんな嫌で仕方がないですけど、しっかり目標持って、これを変えましょうっていう目標を持ってやったら、皆さんすごく熱心に取り組んでくださって、結果小学校の体育館のボールが全部綺麗になったということがありました。やっぱりただ単にベルマークを集めますよとか言ってもまた仕事増えたと思わないですけど、例えばこれで学校がお困りの部分がベルマークを集めることでカバーできますよとかなると、皆さんがそれをやろうっていうふうに仰って頂いたので、こうなったらいいですよっていうね、っていうノウハウみたいなものも一緒にお伝えしたら、そしたらやってみようかなっていう方が出てくるかもしれないですね。

#### ■委員

以前小学校で、ペットボトルのキャップをみんなでクラス対抗して持っていこうという取り組みがあって、うちの子は、キャップをたくさん持っていきたいので、キャップが欲しいので、(ペットボトルを)買って欲しいと言って持っていく記憶があるんですけども、鉄などは絶対学校とかで集められるのが一番いいと思いますし、鉄以外にも、プリンターのインクの使い終わった後のものも学校で集められているので、保護者としても持っていく場所がはっきりしているので持っていくやすいですし、子供も自分がこっだけ持ってきたっていう、やりがいというか、協力したという自覚がうまれるので良いと思います。

食品ロスに関してですが我が家では食べ残しはなくほぼ全て食べます。というのも 1 週間まとめて買われる方がいますが、結局まとめて買ったなら 4、5 日経ったらどうしても使いきれなかったり、たまたま頂き物があって、かぶってしまうということがあるので、1

日ごとに食材を買いに行くほうが、ロスは少ないかなと、個人的には思います。

#### ■委員

食品ロスに関してうちで必ずしているのは、消費期限を超えてもうちの場合は食べられると思って食べています。賞味期限と消費期限の違いって、学校ではお子さんに教えるんでしょうかね。

未開封の状態でごみに出すのがすごく多くて、すごい量が出てくるので、無駄なものを買わないでおきましょうね、というのが一番肝心です。賞味期限はいいので、消費期限の範囲内で必ず消費するようにしましょうねっていうのは広報する必要があると思う。

私が京都エコロジーセンターの来館者に説明をしていたのは、お腹すいた時に、6 時ごろにスーパーには行かないようにしましょうねって言っています。なぜかというと、6 時ごろにスーパーは安売りを始めます。安売りしてお腹すいていると買わなくてもよいものをつい買ってしまふんですね。それを結局食べなくて廃棄してしまうことが多いので、そんな余談を話しながら、賞味期限ではなくて大事なのは消費期限ですという話をしています。原型のまま捨てられる食品どうかしないかごみが減らないと思いませんので議論の対象にして頂きたい。

#### ■会長

消費期限、賞味期限の話でいうと環境省が手前取り運動っていうのをされていて、奈良市が、しかまる君っていうキャラクターをうまく使って、独自にお店でも積極的に呼びかけられています。それが結構な効果が実はあって、本当そんなことだけでも変わるから、驚いた記憶があります。例えば、お店から出る事業系のごみも大きな課題だと思しますので、そういうことを一緒にやることで市民の皆さんは市役所本気なんだなっていうのを受けとめてくださる、そういう効果があったんじゃないかなと思います。直接家庭のごみが減るわけではないですけど、何かそういった取り組みを事業者と一緒にやっていくことが大事なのかなと思います。

#### ■事務局

直接廃棄される食品廃棄物が亀岡市で12.9%ありますが、当然これは亀岡市のごみとして処理しますけども、各家庭の方も買っただけで食べられていないということはお金を無駄に使っていることになります。金額で換算すると亀岡市全体で一年間幾らぐらいになるか計算をすると10億円ぐらいあります。なので、そういうことも含めて、伝えていったらいいのかなと思います。

当初料金の改定ということで、今日だけで結論を出すには短絡的かなと思いますし、見せ方なり、広報の仕方の工夫やり方の工夫というのを、次回までに資料として検討した上で、協議して頂こうと思います。

## ■会長

料金の閲覧の見直しについて、いろんなパターンも検討頂きましたが、すぐには我々もわからないと思いますので、次回今日いろいろご議論いただいた話を踏まえ、具体的なスケジュールをお示しいただいて、一括回収することで埋立てごみが4割減らせる、その4割減らせるということは、市民の皆さんが手数料負担を割或いはそれ以上減らせるっていうことをいかに伝えていくかっていうこと次回集中的に議論できればと思います。

要は料金改定が値上げと捉えられないことが大事だというのが今日皆さんの共通した意見だったと思います。

作業工程みたいなものを次回お示し頂いて議論できればと思います。

あと、配慮が必要な方に対して既存の仕組みで対応できるところと、場合によっては新しい仕組みが必要な部分もあるかもしれませんのでちょっとそこの整理を次回改めてお願いします。

他になれば審議事項の2番目その他について事務局お願いします。

## ■事務局

リユース品の試験回収を5月25日の亀岡環境デーに試験的にやらせていただきました。

開催の前の週に市の公式LINEで2回だけ告知しましたが、約40名の方が来られ、600キロの品物が集まりました。

南郷公園ということで車も入れないので、大きなものは、避けて頂きましたが、特に多かったかのは食器類です、昔買ったけれども今はいらないうようなもので割れていないからリユースに回せるということで結構集まりました。

ちょっとした告知で結構集まったということは、そういうことに関しても関心があるということなので、この取り組みも先ほどの話にありましたように自治会等と連携してのイベント回収のようなかたちで事業を膨らましていきたいなと思いますので、ご協力お願いします。

## ■会長

本日の審議事項は以上になります。あと連絡事項次回の審議会について事務局からお願い致します。

## ■事務局

事務局の連絡事項としまして次回の本審議会の開催についてでございます。次回の会社につきましては7月下旬頃開催ぐらいを、目途に開催したいと考えております。

■会長

それでは本日の会議、これにて終了となりますので、事務局にお返しいたします。  
ありがとうございました。

■事務局

会長、ありがとうございました。

本日議論いただいた内容を参考に手数料見直し及び分別拡大について引き続き検討  
させていただき、次回の会議時に引き続きの審議をお願いいたします。

以上で、第48回亀岡市循環型社会推進審議会を閉会させていただきます。皆様、あ  
りありがとうございました。

(閉会)

以 上